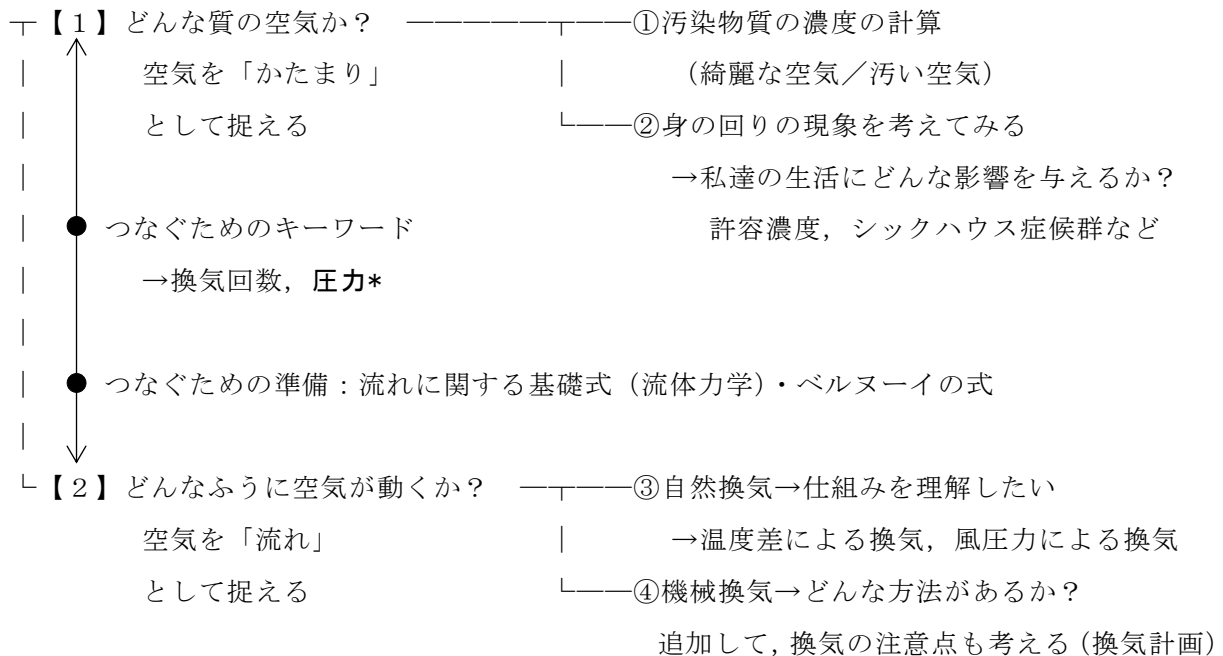


第 5 回 機械換気／換気計画／通風 (教科書 pp. 102~106)

◎ 空気環境の全体像



圧力*

空気を移動させるための駆動力: 圧力差 ⇔ 熱エネルギーを移動させるための駆動力: 温度差

0 今日の内容

補足 1 自然換気と機械換気の違い

1 機械換気のポイント: 2つ+前提2つ

2 機械換気の種類: 3種類! (一番身近なものが一番下)

3 換気計画 (換気の際の注意事項) (「1つの部屋」→「住宅全体」の順番で考える)

補足 2 有効換気量 (教科書 p. 92)

参考資料 1 集合住宅におけるその他の換気方式

4 気密性能 (熱環境での学修内容の復習 (教科書 p. 51))

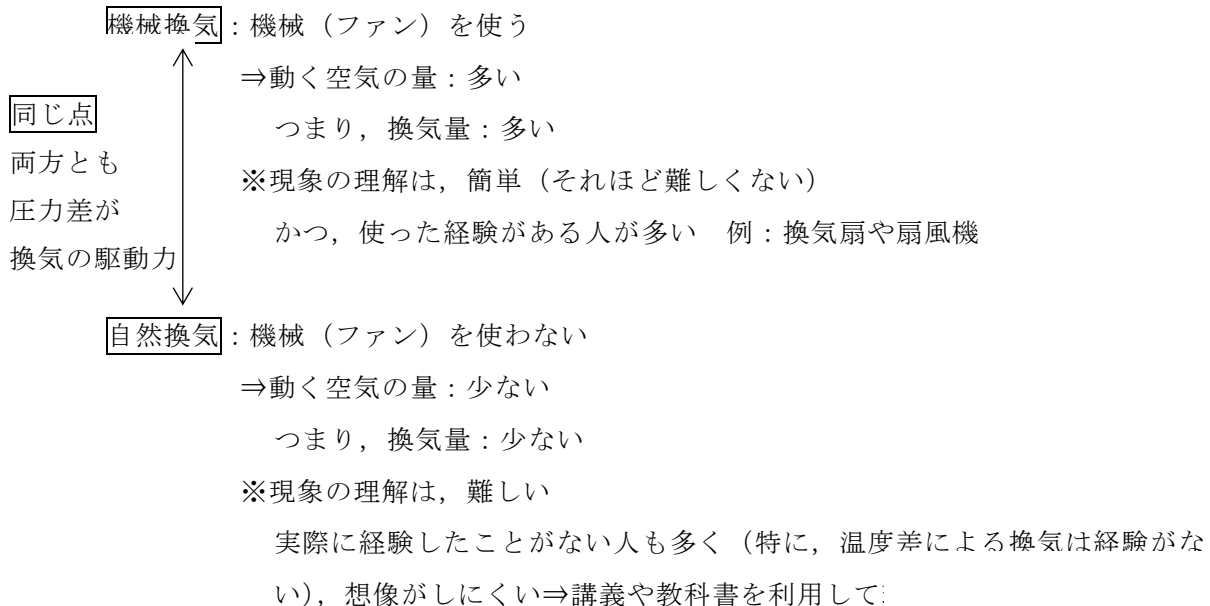
参考資料 2 気密性能に関連する資料 2 種

参考資料 3 「5 通風」 (教科書 p. 106) の補足資料

補足 1 自然換気と機械換気の違い (違う点はどこか? 同じ点はどこか? を理解しよう)

◎比較は大切!

⇒違いを説明できるように!!どこが違うのか?



風圧力による換気 (の結果):
机の上の紙が飛ぶ,
扉が (勝手に) しまる

1 機械換気のポイント 2つ+前提2つ

前提

①屋外の空気はきれい (汚染物質は少ない)

だから, 汚れた室内の空気を入れ換えたい

②基本的には, 空気は一方方向に動く (前方に動く (特に定常で考えるときには))

ポイント

┌ ①空気の**入口**, **出口**, **通り道**を確認する

| 空気がどのように動くか, を想像する

|

└ ②ファン (送風機) をどこに (入口? 出口?) 取り付けるか

⇒①と②を組み合わせて考える

重要: ①空気を動かす (換気) の駆動力: 圧力差

②現象を理解したい, 仕組みを理解したい

2 機械換気の種類 3 種類！ 一番身近なものが一番下（第 3 種機械換気方式）

① **入口**と**出口**の両方重視

第 1 種機械換気方式

自由に空気の動きを調節できる

正圧，負圧どちらも実現可能

欠点：お金がかかる

（ファンの代金が倍，ランニングコスト）

② **入口**重視

第 2 種機械換気方式

空気を部屋の中に押し込む

→パンパンに膨らむ→正圧

例：手術室，クリーンルーム

③ **出口**重視

第 3 種機械換気方式

空気を部屋の中から吸い出す

→ペチャンコになる→負圧

例：汚れた空気をさっさと外に

台所，トイレ

3 換気計画「1 つの部屋」→「住宅全体」の順番で考える（小さなところから大きなところへ）

（1）換気計画の（全体的な）方針（まず考えたいこと）：

「入口」, 「出口」, 「通り道」を考える

1) **出口**だけを考える→（比較的）強力なファン（送風機）を取り付ける

⇒局所換気（目的：汚れた空気をさっさと外に出す）

※実際には，第 3 種機械換気方式を使うことが多い（取付対象：台所，トイレ，風呂）

2) **入口**, **出口**, **通り道**の全てを考える

⇒全般換気（目的：建物，住宅もしくは室内の全体にきれいな空気を供給する）

補足 2 有効換気量 (教科書 p. 92 1-5, 局所換気に関連して (用語の解説))

局所換気の効果は, 送風機 (ファン) の能力に大きく左右される

←局所換気の目標: たくさん, 一気に, 汚れた空気を排出したい (換気したい)

そのために, 送風機 (ファン) を選ぶ際に注意したいこと:

送風機 (ファン) そのもの以外に, その周りにつけているもの (例: フード, ダクト (筒) など) も能力に影響を与える

⇒これらの影響も考えたのが, 有効換気量

有効換気量では, 送風機 (ファン) だけではなく, システム全体としての換気量が示される (カタログ値)

まずは, 実際に欲しい換気量を算出する

特に, 台所の場合は, 理論廃ガス量 (どのくらいの廃ガスが出るか?) を使って算出

→例えば, このコンロではこのくらいの廃ガスが出るという値が示されている (下記)

その上で, 有効換気量のカタログ値と比較して導入する機器類を決める

注) 理論廃ガス量とは?

火気を使用する室に設ける換気設備での換気量 (=有効換気量)

= 定数 × 理論排ガス量 × 発熱量 (または燃料消費量)

このうち, 理論廃ガス量は, 建築基準法の中で決められている値を用いる。

- ・ガスの燃焼によって, どのくらい廃ガスが生じるのかが定められている。
- ・理論上, 下記のような値の廃ガスを生じるとして, 計算する。

都市ガス 0.93 m³/kWh

LP ガス 0.93 m³/kWh, もしくは 12.9 m³/kg

灯油 12.1 m³/kg (灯油を 1kg 燃やすと 12.1m³の廃ガスが出る)

- ・ガス器具による発熱量

コンロ 1 口の発熱量 4.65 kW

コンロ 2 口の発熱量 7.32 kW

コンロ 3 口の発熱量 8.95 kW

(2) 住宅の例 (換気計画について)

主には、**出口**を重視する第3種機械換気方式を使う

プラスして、**入口**と**通り道**も考える

入口を上手く考えると、だいたいよさそうな換気「経路」(通り道)をつくることのできる

※住宅は規模がそれほど大きくないので何とかなることが多い

教科書 p. 104 の換気経路も参照：よくみると結構常識的な内容

- ・入口と出口をできるだけ離す
- ・入口と出口を同じ面に設けるのはできるだけ避ける
- ・出口は汚染物質の発生源に近いところに設け、入口はきれいな空気が欲しいところに設ける

※第1種機械換気方式 (入口にも出口にも送風機 (ファン) を設置) を採用する場合は、教科書 p. 103 の下側の図も参照

用語 ダクトレス：配管 (ダクト) なし

→各部屋に送風機 (ファン) を取り付け

セントラルダクト：中央集中式 (配管 (ダクト) あり)

→中央に出口を1つ設置

重要：入口，出口，通り道を確認

※小屋裏換気：小屋裏 (小屋組をもつ屋根と最上階の天井の間の部分。屋根裏。) の結露防止や夏季の排熱促進に効果あり。

参考資料 1 集合住宅におけるその他の換気方式

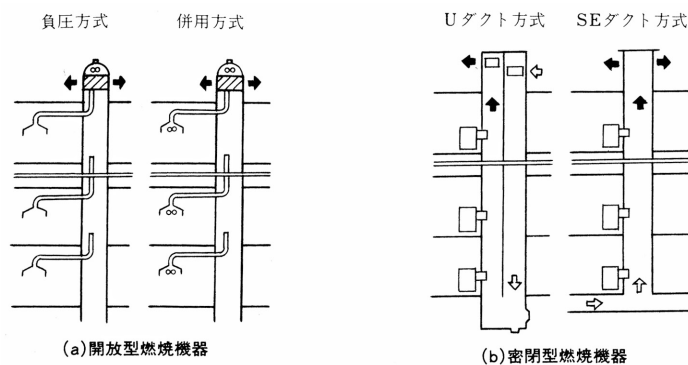


図 集合住宅の共用給排気方式の例 (出典：参考文献[1], p. 156)

(3) 事務所ビルの例 (換気計画について)

ポイント：規模が大きいので，換気の効率も重視する必要がある

→換気システムを構築する必要がある

例えば，

空気を混ぜないで，かたまりのまま (層のまま) で動かせる方法を採用することもあり

→教科書 p. 105 の「置換換気」

※よく似た空気の動きをつくるものとして「床吹きだし空調」がある

→こちらは換気のシステムではなく，空調 (空気調和) のシステム

→両方とも，入口：床，出口：天井

※教科書 pp. 103~105 の図を確認する：入口はどこ？出口はどこ？通り道はどのようになっている？

4 気密性能 教科書 p. 105 (熱環境での学修内容の復習 (教科書 p. 51))

隙間がどのくらいあるか? (隙間が少ない方が気密性能は高い)

加えて, どこに隙間があるのかがわかっているか? /いないのか? も大切

→隙間は空気の入口や出口になり得るので

よい例

- ・どこに隙間があるのかがはっきりわかっている⇨変な隙間 (場所不明の隙間) がない
- ・かつ, 隙間を閉じることできる (開閉することができる)

⇒高気密

注) 「高気密」= 「完全密閉」というわけではない (潜水艦のような家を目指すわけではない)

開閉できる開口部は必要

⇒特に, 機械換気の時には, 換気計画をしっかりと立案できるので, 高気密の方が好まれる

熱エネルギーも移動しにくいので省エネルギーにも繋がる (教科書 p. 51)

困る例

- ・隙間の場所 (位置) がはっきりしていない (はっきりわからない)
- すると, 予期しないところから空気が出入りする (漏れる)
- そうなると, 換気計画を立案しにくい
- なぜなら, 原因と対策が不明なので

⇒と言う意味で, 機密性能が低いのは困る

注) 開口部が大きいことも問題と言えれば問題かも知れないが, しっかりと閉じることができれば問題は少ない (結果的には, それほど問題にはならないことも多い)

指標: C 値 (相当隙間面積) →C 値は気密性能を示す指標 (教科書 p. 105)

→C 値をできるだけ小さいしたい

参考資料2 気密性能に関連する資料2種

表 気密性能の実態と既往の基準 (出典: 参考文献[1], p. 163)

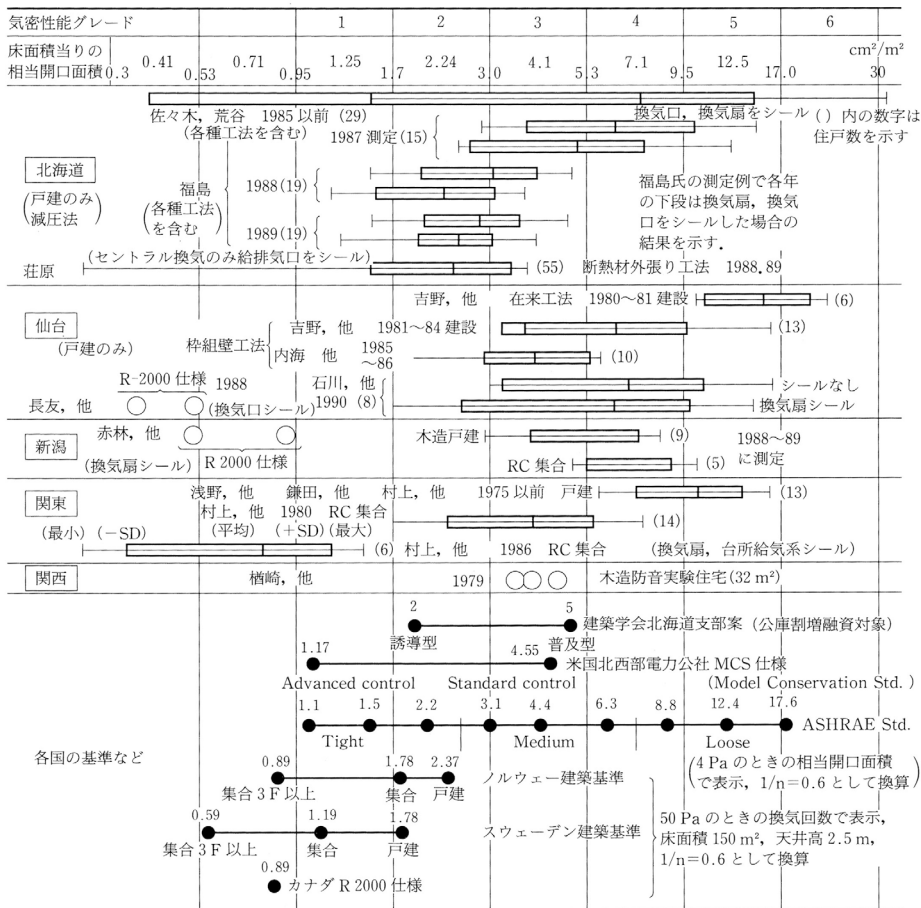
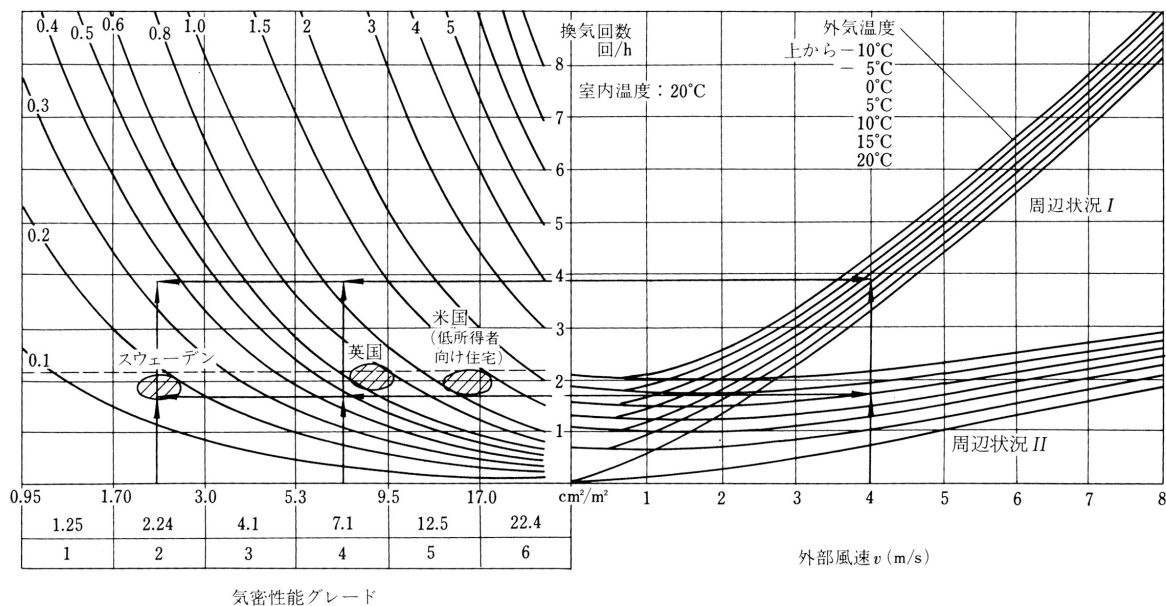


図 気密性能と自然換気量との関係 (出典: 参考文献[1], p. 164)



参考資料 3 「5 通風」(教科書 p.106) の補足資料

→配付資料 pp. 59~60 も参照 (出典: 参考文献[2], pp. 32~33)

【参考文献】(順に, タイトル, 編著者名, 出版社, 発行年月, 価格, ISBN。[] 内は熊本県立大学図書館所蔵情報)。

[1] 『環境工学教科書 第二版』(環境工学教科書研究会編著, 彰国社, 2000年8月, ¥3,500+税, ISBN: 4-395-00516-0) [和書(2F), 525.1||Ka 56, 0000275620, 0000308034]

→第三版もあり(2020年2月, ISBN: 978-4-395-32146-9) [和書(2F), 525.1||Ka 56, 0000387929] [電子ブック]

[2] 『建築設計資料集成 総合編 (全面改訂版)』(日本建築学会編著, 丸善, 2001年6月, ¥23,000+税, ISBN: 4-621-04828-7) [和書(2F), 525.1||Ke 41, 0000275269] [書庫(4F), 525.1||Ke 41, 0000249138]

→皆さんが使っている青色の『コンパクト 建築設計資料集成』以外にも『建築設計資料集成』は様々な種類が出版されている。大変参考になるので, 各自で一度は図書館で確認しておく役に立つ。

[3] 『南雄三のパッシブ講座 通風トレーニング』(南雄三, 建築技術, 2014年1月, ¥1,800+税, ISBN: 978-4-7677-0141-7) [和書(2F), 528.2||Mi 37, 0000371244]

→図や写真が多く, 通風について理解を深めやすいのでお薦め。

032 室環境と設備：通風 Indoor Environment and Building Equipment: Cross-Ventilation

section 1
構築環境
室環境と設備
建築の構造
エンベロープ

通風計画[1]~[3]

通風とは、外に面する風上と風下の開口を大きく開放して外の風を取り込み、室内の間仕切り、家具などの配置を工夫して人のいる場所や必要な空間に風を通すことである。換気と比較して室内に取り込む空気量ははるかに多いため、以下のような効果を得ることができる。

- 室内にもった熱、湿気、汚染などを速やかに取り除く。
- 小屋裏では屋根面からの日射取得熱を、床下では地面からの湿気を除去する。
- 身体からの対流と蒸発による放熱を促進して体感温度を下げる。
- 乱れが大きく不規則に変動する可感気流によって持続的に涼感が得られる。

土地の風の吹き方を知る[4]

風は非常に局地性が強く、また、時間的な変動が激しいので、敷地の主風向や風速を次の条件から確認しておく。

季節ごとの気圧配置

夏・冬の気圧配置による季節風

立地・地形による海陸風や山谷風

昼・夜間における海岸都市の海陸風と内陸盆地の山谷風の吹き方。

都市化の程度による風速鉛直分布

市街地と郊外地の建物などの粗さにより、風速の鉛直分布は異なる。

周囲建物の建蔽率や高さ

敷地周囲の建物の条件により、風向・風速や壁面風圧は大きく異なる。

風速データの観測・解析方法

風の測定機器および観測時間により平均風速が、データの読み取り時間間隔により風速変動の大きさが異なる。

室内に風を導く工夫[5]

外の風を取り込む

- 風の入口と出口を考える。
- 風下開口を風上と同程度または大きく開放する。
- 主風向と主風向の振れを把握する。
- 植栽配置や袖壁などを設けて室内に風を取り込む。

風を冷却しながら室内に導く

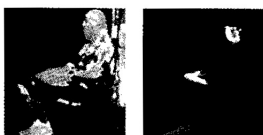
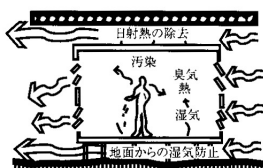
- 蒸発冷却：屋根散水、外断熱外皮蒸発、植物による蒸散などを活用する。
- 地中冷熱：接地床、地下室、土間床、クールチューブなどを活用する。
- 床下冷気：床下地盤に接して冷却された空気を室内に取り込む。

夜間冷気：欄間、格子など開口を工夫して夜間の冷気を導入し、躯体を冷却して夜間外気の冷熱を蓄熱する。

風を発生させる

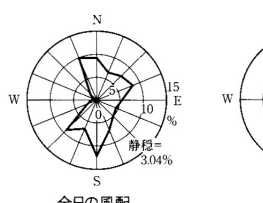
十分な日射遮蔽を行った上で室内外の温度差などを利用して気流を起こし、その空気のゆらぎにより涼感を得る。

- 建物上下にある開口や吹抜けの煙突効果を利用する。
- 水分の蒸発に基づく局所的な冷却により生じる対流を利用する。
- 建物両側の空間の冷却力、日射遮蔽の相違などに基づく温度差によって生じる弱い圧力差を利用する。

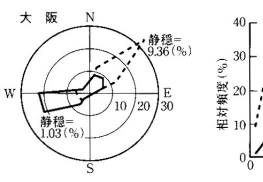


通風開始前に36℃であった顔面や手足は、通風後20分で33~34℃に冷却される¹⁾。

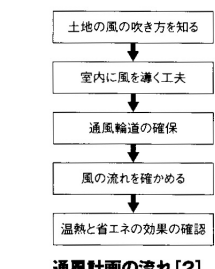
通風の意義[1]



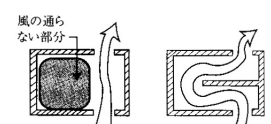
東京における蒸暑季(日平均気温≥20℃、5月下旬~10月初旬)は、大洋から大陸に吹き込む季節風と海陸風がよく発達する。風向を時間帯分類すると、卓越風向がより明確になる。季節風と海風の風向が一致する時間帯の風速は、陸寄りの風が吹く時間帯に比較して1.5倍程度大きい。



蒸暑季の大阪(5月中旬~10月初旬)と福岡(5月中旬~10月中旬)における時間帯別風配と風速頻度分布
大阪:実線は13:00~18:00、破線は3:00~8:00のデータ。福岡:実線は12:00~18:00、破線は24:00~6:00のデータ



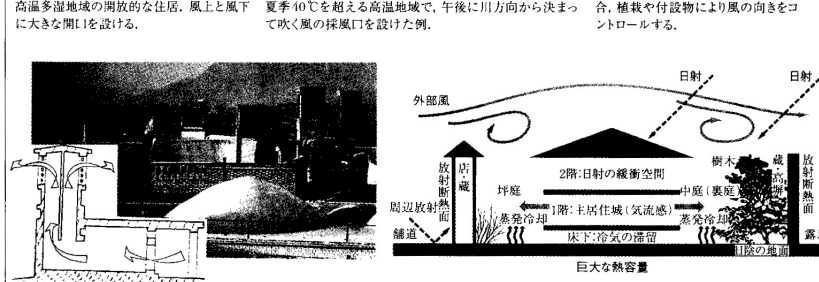
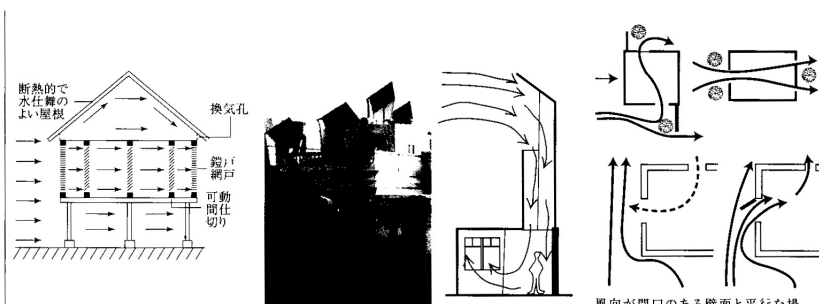
通風計画の流れ[2]



開口や間仕切りの位置により室内の風速分布は変化し、通風の効果が左右される。

通風計画要素の概念[3]

土地の風の吹き方^{01,02} [4] ⇨ 環境編 ⑥: 我が国大都市の風の特性



日射で塔が熱せられ、室内の暖かい空気が上昇し、涼しい空気が引き込まれる。高温乾燥地域で換気塔を備え、家の中に風道を作っている例。

室内に風を導く工夫⁰³ [5] ⇨ 環境編 ⑥: 各種採風の例

植栽や水面を有して低温面を形成する二つの中庭の空間ボリュームの違いによって生じる圧力差を利用し、室内に風を発生させ、深い軒庇、蔵や高層によって日射を遮蔽している京都の町家。¹⁹⁾

通風輪道の確保 [6]

人が作業し生活する場所で効果的な通風を得るため、以下の検討を行う。

平面図による検討

風上開口から流入した風は流出開口に向かって流れ、その間に通風輪道形成する。輪道に沿う空間には弱い2次の流れが生じる。したがって、間仕切りをフレキシブルにしておき、効果的な輪道形成する。

多数室を通る場合の検討

風上室から連続して通風輪道が生じ、2次気流が派生する場合など、複雑な検討が必要となる。

断面図による検討

人は、日常、椅子、横臥などの状態で室内の比較的低い位置で生活しており、床面から人の背丈までの通風輪道を断面図によって検討する必要がある。

風の流れを確かめる [7]

通風計画は、経験や勘に頼る場合が少なくない。しかし、通風時の風の流れを確かめることは、設計手法を発展させていくために重要である。

室内風速と外部基準風速との比(通風率)の分布を以下の方法によって検討する。

- 乱流数値シミュレーション
- 風洞模型実験

都心部などで周囲の条件が複雑な場合、どちらの方法も手間は掛かるが、両者の結果は比較的一致する。

温熱効果と省エネ効果の確認 [8]

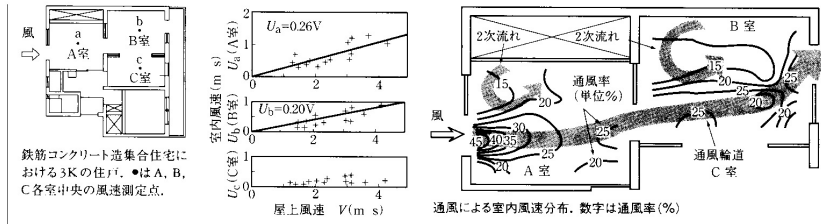
地域の気象データなどを使用し、通風時の温熱感覚に関する被験者実験および総合温熱環境指標の計算結果を判断材料として、通風による温熱効果と省エネルギー効果を検討する。

風だけを通す工夫 [9]

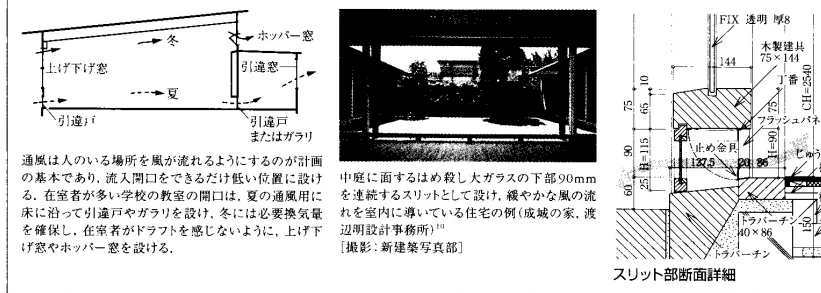
通風計画と同時にプライバシーの確保、日射遮蔽、騒音、雨水の侵入防除などの工夫を行う。

- 視線を防ぐ工夫
- 騒音を防ぐ工夫
- 雨水を防ぐ工夫
- 日射を防ぐ工夫

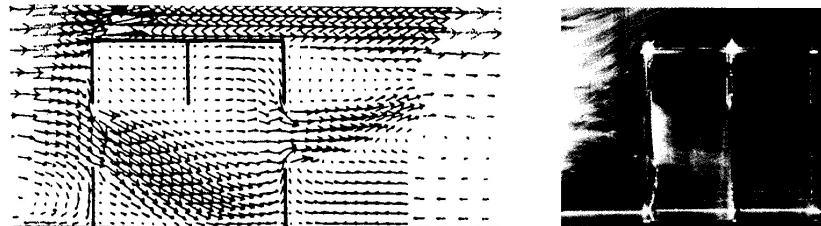
- 1: 浦野良美: 住宅のバンプクーリング, p.30, 森北出版 (1991)
- 2: 環境一部他4名: 夏季の海陸風を対象とする気象データの統計解析, 日本建築学会計画系論文報告集, No.389, p.28(1988)
- 3: 日建設計: 風と建物, FACT-6, p.22(1992)
- 4: 浦野良美, 中村洋: 建築環境工学, p.298, 森北出版 (1996)
- 5: 何平他4名: 局所細分割メッシュ法による通風時の室内気流分布に関する数値シミュレーション, 日本建築学会計画系論文報告集, No.456, p.17(1994)
- 6: Q.ZHANG, et al.: ENERGY SAVINGS OF APARTMENT HOUSES BY NATURAL VENTILATION, 日本建築学会計画系論文報告集, No.381, p.1(1987)
- 7: 石井昭夫他5名: サーマグラムに見られる自然通風の冷却効果, 日本電子ニュース, Vol.26, No.1, p.12(1986)
- 8: 建築文化別冊, 自然エネルギー建築のデザイン, pp.94-109, 彰国社 (1982)
- 9: 鹿谷登: 町家断面の概念図, 民家の自然エネルギー技術, 彰国社 (1999)
- 10: ティレル 116号 (1993)
- 11: 日本建築学会編: 総覧 日本の建築3東京, 新建築社 (1987)



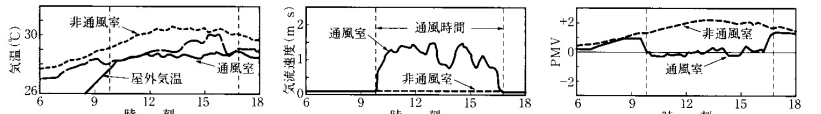
風は風上開口と風下開口を結ぶ線に沿って通風輪道を生じる。そこでの風速は外部の風速に比例し、通風率(=室内風速/外部風速)は一定となる。しかし、間仕切り開口で接する他の通風輪道からはずれる室の風速は、外部の風速に関係なく非常に弱い。通風時の風速分布は複雑であり、通風輪道の風は同じ室内の隣接空間に2次気流を派生させる。



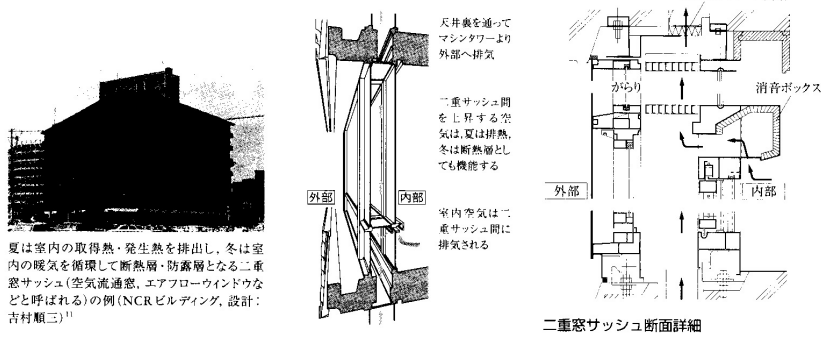
通風輪道の確保 [6] ⇨ 環境編 ⑥: 通風計画・設計諸例



風の流れを確かめる [4] ⇨ 環境編 ⑥: 室内気流数値計算プログラム



温熱効果と省エネルギー効果の確認 [8] ⇨ 環境編 ⑥: 通風の温熱・省エネルギー効果の計算例



風だけを通す工夫 [9] ⇨ 環境編 ⑥: 具体的な事例

建築環境工学 II (第 5 回目) [金曜日・08:40~10:10・中講義室 2]

2023. 10. 27
環境共生学部・居住環境学専攻
辻原万規彦

復習プリント

学年：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

今日の講義の内容を、自分なりに、整理してください。まとめてください。

学年：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

【問題 1】換気に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。理由も述べよ。

1. 密閉型暖房器具は、燃焼による室内の空気汚染のおそれが少ない。
2. 置換換気は、室内空気の積極的な混合を避けるため、設定温度よりもやや低温の空気を室の下部から吹き出し、居住域で発生した汚染質を室上部から排出するものである。
3. 必要換気量は「室内の汚染質濃度の許容値と外気の汚染質濃度との差」を「単位時間当たりの室内の汚染質発生量」で除して求める。
4. 居室の計画的な自然換気においては、建築物内外の温度差や建築物周囲の風圧を考慮して、換気口などの大きさを決定する。
5. シックハウス症候群の原因とされる物質には、害虫駆除に使用する有機リン系殺虫剤も含まれる。

【問題 2】換気に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。理由も述べよ。

1. 住宅における全般換気とは、局所換気と対をなす用語であり、居間、食事室、寝室、こども室などの一般居室を中心に、住宅全体を対象とした換気のことである。
2. 換気量が同じであれば、室の形状、換気方式が異なる場合においても、室内汚染物質の濃度の低減量は等しくなる。
3. 交通量の多い幹線道路に面した建築物などにおいては、外気が必ずしも清浄ではない場合があるので、外気取入口の位置に配慮するほか、取入れ空気の除塵などを行う必要がある。
4. 第三種機械換気方式は、厨房、便所、浴室のように、一般に、室内で臭気や水蒸気などが発生し、これを他室へ流出させない注意が必要な空間に用いられる。
5. 室内の空気の汚染原因としては、塵あい、体臭、タバコの煙、建材や家具からの揮発性有機化合物 (VOC)、ホルムアルデヒドなどがある。